

## 埼玉県さいたま市の寺社や小学校に残る 1923 年関東地震の石碑の調査

安倍 聡志<sup>1</sup>\*, 石黒 喬大<sup>1</sup>\*, 西山 享佑<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 栄東高等学校

近年注目されている地震学の中には、過去の地震を石碑や文献から調べ、被害状況や教訓を学ぶ歴史地震学という分野がある。本校ではこの歴史地震学に注目し、さいたま市内に残る 1923 年関東地震に関する石碑を探し、実際に巡検して碑文を読み取った。

まず、さいたま市内の郷土史から大正 12 年から昭和初めまでに設立され「鳥居や本堂等が再建された」または「建てられた」旨が記録されている石碑を探し、実際に巡検した。その結果、存在を確認できたのは川通小学校、水神社、大光寺、常泉寺、氷川社（ここでは、さいたま市見沼区砂町にあるものとする）、十二天神社、玉泉寺、長命寺、中山神社の合計 10 基であった。なお、大光寺の庭には「本堂再建碑」、「客殿庫裡再建碑」の 2 基が建てられていた。次に、それぞれの調査結果について述べる。これらの石碑は、3 通りに分けられる。

- ・片面に碑文のみが書かれているもの（常泉寺と氷川社、計 2 基）
- ・表面に碑文が、裏面には寄付者連名が書かれているもの  
（川通小学校・水神社・大光寺本堂再建碑・大光寺客殿庫裡再建之碑、計 4 基）
- ・片面に寄付者連名のみ書かれているもの  
（十二天神社・玉泉寺・長命寺・中山神社、計 4 基）

常泉寺以外の碑文のある石碑について、川通小学校、水神社、大光寺本堂再建之碑は、前半部に石碑の設置されている建物の歴史などについて記し、後半部で地震における被害や復興の過程について記すという共通の文体が見られた。大光寺客殿庫裡再建碑、氷川社は前述の前半部がなく、地震発生時の様子や復興の過程のみ記されていた。

以下に、碑文の例として、大光寺本堂再建之碑の碑文をあげる（■はパソコンで出力できなかった）。抑モ當花林山廻向院大光寺ハ天文年間祐真上人中興以來四百有餘年ノ間二十有餘世連聯トシテ相續セリ往古ハ大祿ヲ有シ輪■實ニ美ヲ極メ四隣稀ニ視ル圖山ナリシカ月變リ星移リ數度ノ盛衰ヲ經テ殿■ヲ護持シ來レリ然ルニ明治ノ改革ニ逢ヒ寺領悉ク上地セラレタルヲ辛フシテ還附寺有ニ屬シ漸ク維持ノ方法ヲ樹ツルニ至リ法燈以テ瞭然タルモノアリシカ時恰モ大正十二年九月一日午刻俄然関東一帶大地震トナリ家屋ノ損害人畜ノ死傷繁多ニシテ枚擧ニ遑アラス其悲惨ナルコト到底筆舌ノ盡ス所ニ非ス爲メニ我カ大光寺モ其厄ニ罹リ本堂ハ勿論倒潰粉塵シ忽チ昔日ノ觀ヲ失ヒ庫裡亦大破損ノ難ニ遇ヘリ茲ニ現住隆學ノ發願ニ共鳴シ■中擧ツテ本堂再建ニ全カヲ■キ巨多ノ喜捨ヲ以テ遂ニ大正十三年十二月廿九日ニ端ヲ發シ昭和三年十一月廿三日上棟式ヲ舉行シ同四年六月廿三日完成セリ誠ニ祖先崇拜ノ信念歷然トシテ明カナリ今ヤ昭和五庚午ノ年四月辨慶篋佛十一面觀世音開扉ニ際シ碑ヲ建設シ永久ノ記念トス

昭和五年四月十六日大光寺二十八世

隆學撰書

正面の碑文は、次のように意識できる。

「この花林山廻向院大光寺は、天文年間に祐真上人が起こして以来四百年余りの間に二十数代相續された。昔は多くの祿高を有し、外見も極めて美しく、この辺りではまれに見るすばらしい景色と言われていた。長年の

間に幾度かの盛衰を繰り返しながらも寺を守ってきたが、明治の改革によって寺領は全て没収されたが、かろうじて還付されて大光寺の所有となり、ようやく寺の経営を維持する方法を確立するに至った。大正十二年九月一日の正午に、突然関東一帯で大地震が発生して家屋が被災し、人、家畜が多く死傷し、その悲惨さは書き表せないものだった。大光寺も被災し、本堂は倒潰し、今までの面影はすぐになくなった。庫裡も同様に破損した。隆学の発願に賛同し、■中を挙げて本堂の再建に全力を注ぎ、多くの寺への寄付によってついに大正十三年十二月二十九日に始まり昭和三年十一月二十三日上棟式を挙行し、同四年六月二十三日に完成した。祖先を崇拝する信念によって、この偉業を達成できたと言っても過言ではない。昭和五年庚午の年の四月、弁慶笈仏十一面観世音開扉の式に際して碑を建設して永久の記念とする。

昭和五年四月十六日大光寺二十八世 隆学選書

今回発見したほとんどの石碑が再建に関する内容だったが、唯一常泉寺のものだけが追悼する内容だった。文献調査によると、この地震が発生した際に関東各地で朝鮮人に関する流言蜚語が流れ、多くの朝鮮人が虐殺される事件が起き、埼玉では約 240 名が犠牲になったということがわかった。碑文から読み取ったことを含めて考えると、この石碑（墓）は、大正 12 年に一度虐殺被害者を供養する目的で建てられ、その後、平成 13 年に関東地震による犠牲者を供養する碑を増築したものと思われる。墓石の横には、卒塔婆が置かれており、日本語で記されたものとハングル文字で記されたものがあった。日本語のものは、「大施餓鬼会為朝鮮人殉難者一切諸精霊追善菩提塔也」と記されていて、これは「国難を受けた朝鮮人の全ての霊の冥福のために餓鬼の世界に落ちて飢餓に苦しむ亡者に食べ物を供えて弔う大きな法会を追善したことを記す塔である」と解釈できた。また、ハングル文字のものは、「朝鮮人虐殺の真実究明を止めないです」と解釈できた。

地震に関する石碑を読み取ることによって、史実を正確に知ることができた。また、地震が発生した後に浮上した流言蜚語にまどわされずに、過去の教訓をもとに冷静に対処しなければならないことも、教訓の 1 つとして認識した。